

平成28年度「市民芸術祭」

ヘンデル作曲
オラトリオ「メサイア」

12月11日(日) 14:00開演 厚木市文化会館 大ホール

日ごとに秋の深まりを感じる今日このごろですが、会員の皆様にはお変わりございませんか？
早いもので、2016年も残りあと2か月を切ってしまいましたね。
そして、いよいよ平成28年度市民芸術祭「メサイア」公演が目前に迫っています。

厚木交響楽団は来年創立40周年を迎えますが、これまでに厚木合唱連盟を中心とした市民合唱団と、10余回の演奏会で共演を重ねて参りました。厚木市主催の市制10周年や、合唱連盟創立10周年といった節目の年の公演も有れば、マーラーの「復活」やホルスト「惑星」といったプログラムで、こちらの演奏会に賛助出演をお願いしたこともあります。

2005年、市制50周年記念のベートーヴェンの交響曲「第九」演奏会後は、2年に一度年末にオーケストラと合唱による「市民芸術祭」を行うという形が定着し、前回2014年にはモーツァルトの「レクイエム」を、そして今年は2000年3月以来となるヘンデルのオラトリオ「メサイア」を取り上げることになりました。

「市民芸術祭」の合唱団(あつぎ市民合唱団)はその都度、市からの呼びかけに応じて集まった市民のみなさんで構成されますが、長年その中心となって合唱団を引っ張って来られたのが、厚木合唱連盟の理事長を務められる飯塚正道さんです。現在この「友の会」の会員でもいらっしゃる飯塚さんに、お忙しい合間を縫ってお話を伺うことができました。

あつぎ市民合唱団 団長

飯塚 正道さんにインタビュー!!!



○そもそも、歌との関わりはいつ頃からでしょうか？

運動が私苦手で、高校でどの部に入るのかというとき、中学の同級生のお兄さんが「合唱どうだ？」と勧めてくれたのです。長野の善光寺の横あたり、男子の多い高校で3年間男声合唱をやりました。大学でも続けようとしたら、隣に混声合唱の部室がありまして、70人くらいのその団体に所属することにしました。大曲志向の合唱団で、1年の時に「モツレク」(モーツァルトのレクイエム)「森の歌」(ショスタコビッチ)を経験し、それまでは純粋な男声合唱の曲ばかりだったのが、この2曲に出会ったことで宗教曲やオーケストラとの大曲の素晴らしさを知ることが出来ました。バッハのモテットやブラームスの合唱曲を歌う中で、合唱音楽の世界がさらに広がりました。

○卒業されてからは？

教員(高校)になって、35歳くらいまで演劇部の顧問をしていました。教え子の立ち上げた劇団でバックアップ、最後は自分も役者になって、東京で2週間くらいぶっ続けで公演なんてこともありました。5時に学校を終え6時半に楽屋入り、終演が9時で食事が10時頃という生活を続けるうちに慢性肺炎になってしまいました。演劇の才能も無いとわかったので、それから合唱に戻って来ました。近隣の合唱団をいろいろ経験しましたが、二期会の近藤先生との出会いがあり、厚木混声合唱団で歌うことになったのです。

○厚木市にはいつから？

結婚後1993年位からでしょうか。厚木混声合唱団には88年に入団して、厚木合唱連盟は当時は松尾理事長でしたが、のちに後任を任されることになりました。厚木市音楽協会に合唱連盟も加入していて、そこで厚響の神崎団長と出会うのです。神崎さんにはいろんなことを教えていただきました。市の企画などで共演を重ねながら、「市民芸術祭」は次第に「第九」「モツレク」「メサイア」というプログラムに落ち着いてきたようです。

○では、今回の市民合唱団についてお聞かせください。

7月10日に結団式でしたが、その前に初心者向けの研修を行いました。全くの初心者にとって「メサイア」を歌う事はかなり厳しいのです。今回最初184名集まりましたが、途中、ご家庭の事情等で参加を見合わせる方もいて、今175,6名でしょうか。ソプラノ：アルト：男声で1：1：1くらいの構成比です。近隣のどの合唱団でも男声は不足していますので、お互いに賛助出演しあって協力しています。



前回2000年『メサイア』公演
のプログラム表紙

○「メサイア」の歌詞は英語ですよね？

この前も対訳を配ったのですが、ミサ曲と違うとはいえ、イエス・キリストの生涯を辿るような構成となっているので、それぞれの曲が何を歌っているのか歌手がわかっていないと、十分に表現することは出来ません。英語の発音に関しては最初にざっと歌詞を読むなど歌唱指導をしますが、英語に堪能な方は別として、正しく発音しながら歌うのはなかなか難しくどうしてもカタカナ英語になってしまいます。「モツレク」などのミサ曲はラテン語ですが、日本語のように母音の数も少なく、「キリエ」「グローリア」など歌詞も決まっているのでまだ歌い易いのです。「メサイア」は全53曲中41曲を今回演奏し、そのうち合唱が歌うのが15曲です。あとの24曲はソリストが歌い、オーケストラだけの2曲(序曲、田園交響曲)が聴けるのもとても楽しみです。

○今回は「ベンチ」を用意されるとか？

参加者の年齢が中学2年から80代までと幅があり、長時間なのでやはり座れないと大変です。なかなかいいベンチが見つかりませんが、神崎さんが、安く貸し出している町田の業者を探してきて下さいました。これからは「第九」でも使うことになるかもしれません。舞台での並び順は身長によって決まり、列の両端、後ろへ行くほど高い人が並ぶようになっていて、練習でも既にそうして並んでいます。

○着々と準備が進んでいますね。初めての合同の練習が楽しみです！では、最後に、飯塚さんにとって「合唱の魅力」とは何か、お聞かせください。

私にとっての「合唱の魅力」は、優れた指揮者・伴奏者のもとで(アカペラの時は、指揮者のみですが)気の合った仲間と奏でる『音と心のハーモニー』ではないかと思います。このハーモニーによって生まれる感動は何物にも代えがたく、ずっと歌ってきて良かったなと思えるひと時です。

正直、同級生のお兄さんに誘われて踏み込んだ「合唱」の世界が、自分のライフワークになるとは思ってもみませんでした。そういった意味で、大学1年の時に先の2曲と出会えたことは、自分の人生にとってはこの上なくラッキーなことでした。厚木混声でも厚木男声でも、色々な曲を歌っていますが、西洋の大作曲家による大曲に勝る曲はありません。高田三郎や佐藤眞らによる邦人の曲も魅力的ですが、バッハ・モーツァルト・ベートーベン・ブラームスらによる大曲は更にいっそう魅力的で、これらの曲を歌う事で、私の日々の生活が潤い、人生が楽しく豊かなものとなっていると言っても、過言ではありません。

いつも合唱団の最前列できりっと立って歌われていた飯塚さんの姿は、以前から印象に残っていました。実際にお話をさせていただいたのは今回が初めてですが、淀みなく出てくる言葉の端々に、合唱に対する深い愛情が感じられました。「音と心のハーモニー」!!素晴らしい言葉ですね。歌う事で心も通い合う、その魅力がずっと飯塚さんを捕らえて離さないのでしょう。これからはどうぞ「厚木の合唱の顔」としてますます活躍くださいね!



(2014年「レクイエム」公演より)

今後の演奏会
予定

●第2回 大和ニューイヤーコンサート 指揮/田久保 裕一
2017年1月14日(土) 16:00 開演 やまと芸術文化ホール

●第6回 海老名ニューイヤーコンサート 指揮/田久保 裕一
2017年1月15日(日) 15:00 開演 海老名文化会館
(内容は両日共同じです。詳細は同封のチラシをご覧ください)

●第77回 定期演奏会 指揮/長野 力哉
2017年4月23日(日) 14:00 開演 厚木市文化会館 大ホール
ニーノ・ロータ トロンボーン協奏曲 独奏/郡 恭一郎
ブルックナー 交響曲第8番ハ短調 作品108 他



「ステージマネージャー」ってご存知ですか？厚響には田代邦幸さんという素敵なステマネがいます。みなさんが彼の姿を目にするのは、ほとんど無いでしょう。ステージ裏から楽屋にかけての一带が彼の仕事場だからです。「縁の下の力持ち」的な人々、今回は「ステージマネージャー編」です。

以下は、こちらの質問に書面で答えいただいたものです。

○いきなりで恐縮ですが、「ステージマネージャー」とはどのような働きをする人なのでしょう？

ひとこと言えば、演奏会の裏方の仕切り役ですが、実際には雑用も含めていろいろやります。本番では開演前の予ベル、場内アナウンス、照明の切り替え、オーケストラのメンバーやコンミス、指揮者の入場のタイミングは、全部私がタイミングを決めて合図を出します。開演前や休憩時間中に、指揮者のスコアを指揮台の上に用意しておくのもステマネの仕事です。休憩時間中に配置換えがあるときには、イスや譜面台の出し入れや移動があります。厚響の場合は団員の皆さんがご自分でやられることも多いですが、最終的にはステマネが確認します。あとは、細かい事まで挙げるとキリがないんですが、まあ無事に本番を迎えるために舞台上で必要な事は何でもやりますので、リハーサル前とか本番前の時間帯は常にステージ裏にいて、誰から何を言われても対応できるようにしています。その場所にいること自体も仕事みたいなものです。

○田代さんはもちろん本職は全く違ったお仕事をされているわけですが、では、どのようにしてそのノウハウを身につけてこられたのですか？

こればかりは、回を重ねて勝手が分かってきたとしか言いようがないですね。最初のうちはもっと手際が悪かったと思いますし、細かいミスもいろいろありましたから。「ステマネのノウハウ」が身についたというよりは、厚響の演奏会の勝手が分かってきたということだと思います。会場も毎回ほとんど同じです。場所にも慣れました。何年目頃からか忘れましたが、ある時期からプログラムにも「ステージマネージャー 田代邦幸」として名前を載せていただけるようになって、そのあたりから、私も厚響の皆さんも、お互いに私がステマネをやらせていただく演奏会に慣れてきたのではないのでしょうか。事前打合せも非常に少なくなりました（笑）。あとは、自分も吹奏楽団やオーケストラで演奏しますので、演奏会の段取りはある程度分かっていますし、演奏者の立場だったらどうしてほしいか、ということも想像できたりしますので、そういう経験は役に立ってるかなと思います。（※田代さんには、杉並オペラ等に、トロンボーンで賛助出演していただいたことがあります。）

○厚響とのおつきあいはもう10年以上になると伺っていますが、では、そもそもこの役目を引き受けられることになったいきさつを教えてくださいませんか？

トロンボーンの佐藤さんが同じ吹奏楽団に所属していて、そのツテで声がかかったのがきっかけです。それ以降はインペク（※）の西尾さんから直接依頼されるようになります。最近は演奏会の予定が決まるとすぐ西尾さんから連絡が来ますので、実はもう来年の12月まで予定が入ってます（笑）。
※インペク…インスペクターの略。オーケストラの運営をスムーズにするための調整係的役割

○「やりがい」を感じられるとしたら、どのような場面でしょうか？

「やりがい」というのはちょっと違うかもしれませんが、演奏者であれ裏方であれ、音楽を作る現場にいられることが楽しい嬉しんです。我々は年に何回もやっていますから、こういう経験は特別でもなんでもありませんけど、一般的には演奏会をやる側を経験できる人って少ないと思います。そういった意味では貴重な経験をさせてもらっている訳で、それだけでも幸せな事だと思います。ですから私もある意味で裏方の役割を楽しんでいるのですが、やはり準備が問題なくてできて本番を迎えて、最初の音が出た瞬間に一度ほっとしますね。指揮者をステージに送り出した後も、曲が始まる前に舞台上で何か問題が発生したら自分の出番かもしれない（笑）。だから、団員の皆さんからはほとんど見えなと思いますが、曲が始まるまでは私も緊張しながら指揮者を見えています。それで、タクトが振り下ろされて音が鳴ったら「よし OK!」と思うわけです。団員の皆さんはここから先が問題でしょうけど（笑）。

（裏に続く）



田代 邦幸さんです



リハーサルを見守るのも仕事



ハーブの椅子を運びます



ドアの開閉が重要

○今までずっとやってこられて、何か大きなトラブルと申しましょうか、困難な場面に出くわした経験がありましたら、お聞かせください。

隔年で12月に開催される合唱付きの演奏会は、普段の演奏会と違って、裏方の段取りが大変なんです。幸いこれまでは大きなトラブルには至らなかったのですが、演奏会は無事に予定通りできましたが、臨機応変に乗り切った場面があまりに多くて、細かいことは全然覚えてません(笑)。

○ほかに、心に残るような何か思い出(演奏会)はありますか？

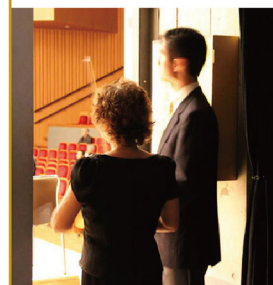
お話ししていかどうか分からないので、天野先生からNGが出たらカットしてほしいんですけど(笑)、「シェエラザード」を演奏したときですね。もちろんコンミスの天野先生が見事なソロを演奏されたのですが、メンバーがステージに出た後、これから天野先生を送り出すという場面で、天野先生がとても緊張しておられて…。軽く背中を叩いて差し上げたのですが、私までいつも以上に緊張しました。強く叩きすぎて、むせたりしたらどうしようかと。マーラーの交響曲の5番とか1番の演奏が印象に残ってます。自分がマーラー好きだし演奏も素晴らしかったのですが、リハーサルの緊張感が特に高かったという印象があります。

(写真は第75,76回定期演奏会より)

オケの団員ですらよく知らない「ステージマネージャー」のお仕事。おかげさまで勉強になりました。いつも田代さんがいてくれるから、安心して私達はステージに出て行けます。これからもご都合が許す限り、どうぞよろしくお付き合いくださいませ。休憩時間や曲の配置換えのときに、田代さんを目撃できるチャンスです!!(笑)どうぞ、一息入れながら、ちょっとステージに目を凝らしてみてくださいね。



袖でモニター等をチェック



天野先生を送り出します

事務局より



前回第76回定期演奏会に先立ち、9月19日に、今年も南毛利公民館のご協力で学級講座「生演奏を聴いてみよう！」が開講されました。もう10年近くも続くこの講座ですが、今年初めて「友の会」のご案内を当日ご出席の皆様の前でさせていただきました。今年の講師は大浦智弘先生でしたが、受講された方々のご感想を公民館から許可をいただき、いくつかご紹介いたします。

- ・大浦先生のファン。何年か前にも同じ講座に参加。演奏を聴く前に曲の説明を受けるのはとても良い。
- ・シュトラウスの指揮による録音鑑賞、すごく感動！(先生が音源を準備されました)
- ・大浦さんご使用の楽譜(総譜)回覧、演奏会が身近に感じられる。
- ・音楽に触れたことがほとんどなかったので、今日と25日を含め、良い経験になると思いました。ありがとうございました。

初めて受講された方も、リピーターの方もどうもありがとうございました！なお、9月25日の演奏会のあと、この講座の受講生の方も含めて、なんと4名の方が友の会に入会希望を出して下さいました。当日の場内アナウンスも効果あったようですね。これからも営業活動、頑張ります！！

- 「メサイア」の中でも特によく知られている「ハレルヤ・コーラス」は、1743年のロンドンでの初演の際に、国王ジョージ二世が感動の余り立ち上がったというエピソードがあります。真偽の程は定かではありませんがそのため、以前はこれが始まると聴衆が起立して聴くという習慣が一部に残っていたようです。私が学生時代初めて「メサイア」を聴いたときも確かそうであったと記憶しています。会員の皆様にも心当たりがある方、いらっしゃいませんか？
- 年内の演奏会は「メサイア」公演が最後ですが、年明け早々、崔宗宝音楽事務所主催の「ニューイヤーコンサート」に初参加いたします。目の前で繰り広げられるバレエやオペラ歌手の方々との共演が今から楽しみです！普段の定期演奏会では実現不可能なこの企画、皆様もぜひ、チケットをお求めになってお越しくださいませ！
- 平成28年度の「友の会」会員期間は2017年3月31日までです。年が明けましたらまた継続のご案内をお送りいたしますので、ぜひ引き続き「厚木交響楽団 友の会」をよろしく願い申し上げます。

(事務局 岡田史子)